

概要

添付文書に記載されている投与禁忌の患者状態や投与部位などに関するデータベースです。
医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての禁忌に関する情報を網羅しています。

特徴

1. 6段階のレベル分け

添付文書の禁忌に関する注意喚起の情報を以下の6段階のレベルに区別し、レベルの選択に応じたチェック結果を得ることが可能です。

レベル	添付文書の記載
高 禁止	禁忌、禁止、投与しない、投与を避ける 等
原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として投与しない 等
相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ投与 等
希望禁止	投与しないことが望ましい 等
慎重投与	慎重投与、慎重に投与する 等
低 注意	注意、留意 等

例)

患者様の情報として予め「消化性潰瘍」を登録しておくことにより、「消化性潰瘍」に「原則禁忌」の『コートン錠25mg』を処方した場合に、「原則禁止」のエラーを表示します。

『コートン錠25mg』の添付文書

【原則禁忌】
(2)消化性潰瘍の患者〔粘膜防御能の低下等により、消化性潰瘍が増悪するおそれがある。〕



『コートン錠25mg』のデータ(概略)

レベル	患者属性
原則禁止	消化性潰瘍



原則禁止

2. 禁忌病名からの薬品検索

禁忌の内容を登録することにより、添付文書に当該する禁忌の記載がある薬品を検索することが可能です。

例)

「緑内障」から、緑内障に投与禁忌の『ゼスラン錠 3 mg』を検索します。

『ゼスラン錠 3 mg』の添付文書

【禁忌】
2. 緑内障のある患者[抗コリン作用により緑内障を悪化させるおそれがある。]

薬品検索の結果例

ゼスラン小児用シロップ 0.03 %
ゼスラン錠 3 mg
セドリーナ錠 2 mg
セレスタミン配合錠 等

緑内障のうち、開放隅角緑内障や閉塞隅角緑内障などは緑内障と同義の病態ではないため、同義語処理を施していません。

3. 表記が異なる同義語に対応

異なる表現の禁忌病名を同義語処理（シソーラス化）しています。これにより、検索結果に漏れが生じることがありません。

例)

患者様の情報として予め「消化性潰瘍」を登録しておくことにより、「消化性潰瘍」の同義語である「狭窄性消化性潰瘍」に「禁忌」の『タベジール錠 1 mg』を処方した場合に、「禁止」となります。

『タベジール錠 1 mg』の添付文書

【禁忌】
4. 狭窄性消化性潰瘍又は幽門十二指腸閉塞のある患者〔抗コリン作用により消化管運動が抑制され、症状が悪化するおそれがある。〕

『タベジール錠 1 mg』のデータ（概略）

レベル	患者属性
禁止	狭窄性消化性潰瘍

同義語処理

消化性潰瘍
活動性消化性潰瘍
狭窄性消化性潰瘍
重篤な消化性潰瘍
消化性潰瘍 < 活動期 >
非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与による消化性潰瘍

同義語処理により、
表現が異なる禁忌
病名もチェック

禁止

消化性潰瘍のうち、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などは消化性潰瘍と同義の病態ではないため、同義語処理を施していません。

4. 豊富な検索キー

複数の検索キーデータを作成し、検索時の多様な入力に対応しています。

同義語の検索キーからの検索にも対応しています。

例)

「SLE」「えりてま」「ぜんしん」のどの検索キーからも『全身性エリテマトーデス』『SLE』双方の検索が可能

データ (概略)

禁忌 (既往歴) 病名	検索キー
全身性エリテマトーデス	「ぜんしん」「えりてま」「SLE」
SLE	「SLE」「えすえる」「ぜんしん」「えりてま」